

オレゴン便り

発行:中野聖紀子

2013年

10月

10月も中旬になり、オレゴンは朝の冷え込みが厳しくなってきました。毎朝3～5度ほどですが、日中は20度近くまで上がり、気持ちの良い秋晴れの日々です。昨年と違い9月に雨が多く、もうこのまま晴天を迎えずに雨季に突入するのかと思っていましたが、10月5日頃から、時々雨や曇りもありますが、全体的に天気の良い日が続いています。緑の大地に赤や黄色に色づいた木々、黄色に緑と様々な色が層になって見えるウィラメットバレーの山並みとそこに Vineyard (ブドウ園) の景色が広がり、桜や



たくさんの花のカラフルな色で溢れる春のオレゴンもきれいでしたが、秋のオレゴンも大変美しいです。10月中旬は、オレゴンの日の出は朝7時半、日の入りは夕方6時半頃です。通勤時に見える朝日や夕日に染まる空も思わず見惚れてしまうほどです。朝焼けの空の向こうに見えるマウントフッドの姿、夕暮れ時にピンクや紫色に染まった雲の色、どれも本当に美しく、この秋、私はますますオレゴン州の大ファンになりました。

～派遣校 Sheridan Japanese School (SJS) での活動紹介～

ゆかた着物ワークショップ

9月19日(木)に、「ゆかた着物ワークショップ」がSJSで開かれました。横浜国立大学の薩本弥生先生を中心にした研究プロジェクトの一環として、今回のワークショップが実現しました。このプロジェクトチームには、富山県出身の埼玉大学の川端博子先生も所属しておられ、川端先生もSJSに來られました。ワークショップでは、中学生、高校生全員が、自分でゆかたを着る方法を学びました。



最初に行われたスライドや英語版パンフレットによる着物についての説明を手がかりに、実際のゆかたの着装に意欲的に取り組んでいました。教師の助けを必要とした生徒ももちろんいましたが、何とか自分の力でゆかたを着ようと奮闘し、その結果、ほぼ自力で着ることができた生徒もたくさんいました。最後にみんなでゆかたを着て記念撮影ができたことも嬉しかったようです。



ワークショップ後に感想を聞くと、「これから毎日自分でゆかたを着て学校に來たいと思った」「もう1回、自分で帯を結びたい」「ゆかたを買いたい」「アメリカでゆかたを買うといくらくらいか知りたい」「これまでの日本文化体験でいちばん楽しいワークショップだった」「自分でゆかたを着ることができて嬉しい」「帯の結び方を知ることができて嬉しい」と生徒それぞれが満足そうに語ってくれました。このような素晴らしい機会を与えてくださった

先生方、本当にありがとうございました。



日本の高校生との交流

9月27日(金)に、埼玉県の淑徳与野高校2年生1クラスが、修学旅行の一環でSJSを訪問しました。交流会では、SJSの生徒は和太鼓やJ-POPの歌を発表し、淑徳与野高校の生徒は「ソーラン節」を披露して、楽しい交流会となりました。交流会後、日本の高校生は、2人1組でSJS関係の家庭に3泊4日の日程でホームステイしました。ホストファミリーとの対面では、SJSと日本の生徒が英語と日本語を混ぜて会話しているのが聞こえてきました。滞在中は一緒にスーパーで買い物をしてアメリカの食事を作ったり、乗馬やアイススケートをしたり、DVDを見るなどして、楽しい週末を過ごしたようです。SJSの生徒たちにとっても、日本の高校生たちにとっても、とても良い機会となったと思います。

その他にも9月には、広島県から平和大使の一行がSJSに来校し、戦争や原爆体験を生徒たちに語ったり、北海道から昨年も訪問した北海道工業大学の学生たちが今年も来校して生徒と交流したりしました。

計4件日本からの訪問があり、SJSの生徒たちは、日本人と触れ合う機会がたくさんありました。



SJSの太鼓チームの発表



日本の高校生によるソーラン節



ホストファミリーとの対面式

スカイプでサムライ刀エクササイズ

私は、今年度、中学生2クラスを対象とした「日本文化と会話」の授業を、週4コマずつ担当しています。このクラスの生徒の1割程度しか、夏休みの日本語サマーキャンプ中に行った「スカイプ刀エクササイズレッスン」を受けていませんでした。受けていなかった生徒たちからの要望も多く、スカイプを使っての「刀エクササイズ」のレッスンを、東京からもう一度していただくことになりました。

今回は、「刀エクササイズ」のレッスンの他に、孝藤右近SAMURAI 6の皆さん6名全員による殺陣のパフォーマンスも見せていただきました。素晴らしいパフォーマンスに、生徒たちは釘付けになっていました。



途中、スカイプが一時つながらなくなるトラブルもありましたが、最後には教えていただいた一連の動きを、ペアで発表することができました。また、日本語で自己紹介するなど、日本にいる日本人と日本語と英語を混ぜて会話ができただことも嬉しかったようです。



レッスン後に生徒が書いた礼状には、「さむらいエクササイズが大好きです」「またスカイプレッスンをしたいです」「とても楽しかったです」「飛びながらするのがいちばん楽しかったです」「オレゴンにいつか来てください」「日本に行ったら皆さんに会いたいです」など、英語と日本語で書かれていました。また、今回、日本は真夜中だったということを知り、「夜中の2時まで起きていてくれてありがとうございます」と書いた生徒もいました。

アメリカの公立校の中には、予算の関係で体育の授業が日本のように実施されていない学校が多くあります。SJSにも体育の教師がいないため、このような活動が日本文化紹介と同時に、生徒たちの運動不足解消につながればいいと思っています。

時差の関係で、真夜中に東京からスカイプレッスンをボランティアでしてくださった SAMURAI 6 の皆さん、本当にありがとうございました。



さむらい6のみなさんへ。
 さむらいのクラスはとても
 たのしいからだよ。ぼくはさむ
 らいエクササイズも
 ることはたてまけとまきで
 す。ありがとうございます。

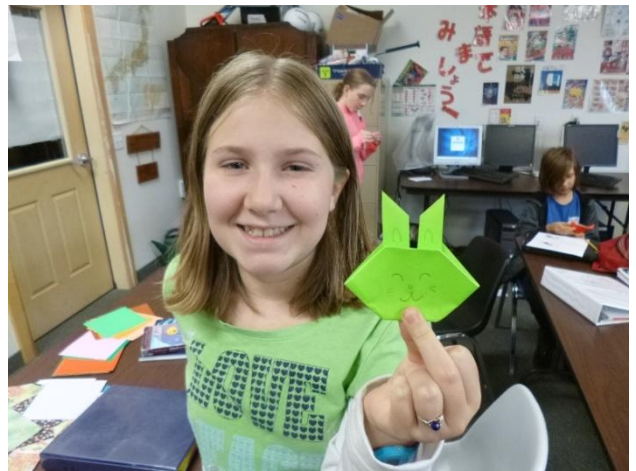
ありが"と"ござ"いました
 Thank you so much
 it was a lot of fun
 and I wish to do it
 again. It was a
 good experience. Thank you

さむらい6のみなさんへ、
 Thank you for giving us the
 lesson. I had lots of fun doing them.
 I really liked the jumping one the best.
 How many times have you thought a
 lesson for another country? I hope we can do
 this again. ありがとうございます。

お月見の学習と白玉団子作り

9月から、私が担当する小学5年生中心の初級日本語Ⅱの授業は週5コマあり、そのうち1コマを、日本文化を紹介する時間にしています。9月から10月にかけて、日本の「お月見」について学習しました。アニメ「サザエさん」の中に、「お月見」をテーマにしたものがあったので、「お月見」の際に必要なものは何か探しながら映像を見るように言うと、見終わった後に「もち」「花」などしっかりと答えてくれました。

アニメの中で登場人物たちがしていたように、白玉粉を使って団子作りも行いました。きな粉で食べるのは苦手かと思いき、バナナやパイナップルなどのフルーツも用意していたのですが、きな粉で食べる白玉が意外にも大人気で驚きました。昨年度の授業で、焼き餅をきな粉に付けて食べるということを紹介したからか、きな粉はおいしいと



覚えていたようです。

日本人には月に餅をつくウサギが見えることを紹介した後、子どもたちには何が見えるか聞くと、「女の人」「カニ」「小犬」「ロバ」などと、それぞれが想像力を働かせ目をきらきらさせて答えてくれました。授業では折り紙でウサギを作り、画用紙で作った大きな満月に貼り、学校の入り口に掲示しました。

今回のこの「お月見」の学習では、これまで習った日本語表現を復習としてたくさん使うことができました。今年の中秋の名月「9月19日」、季節「秋」、月に感謝します→「ありがとう」という言葉、動詞

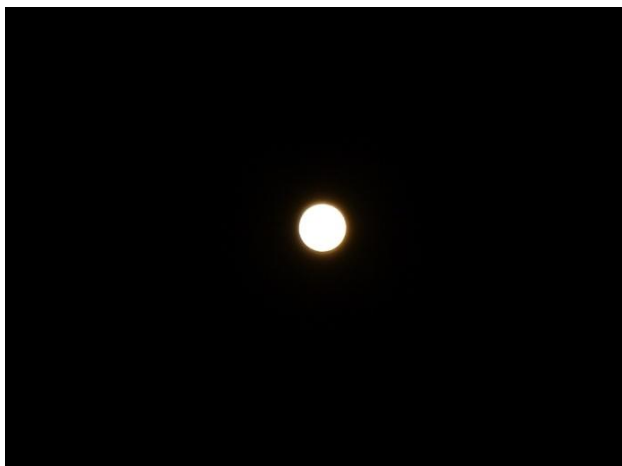
「見ます」、動物を表す言葉、さらに「サザエさん」を見たときには家族を表す言葉「お父さん」「お母さん」「お姉さん」「弟」「妹」「おじいさん」「おばあさん」など、子どもたちの知っている日本語を使いながら、日本の文化を紹介することができました。1年前は英語で行っていた日本文化の授業は、今年、日本語と英語を混ぜてできるようになりました。



白玉団子作り



白玉にきな粉やフルーツを添えて



オレゴン州の9月19日中秋の名月



子どもたちが作った折り紙のお月見ウサギ

Art Harvest Studio Tour と校外学習

SJSのあるシェリダンや私の住むマクミンビルは、オレゴン州の中で Yamhill County (ヤムヒル郡) にあります。ヤムヒル・カウンティでは毎年10月の第1、第2の金曜、土曜、日曜の6日間、Art Harvest Studio Tour (アート・ハーベスト・スタジオ・ツアー) と呼ばれるイベントが開催されます。今年で21年目を迎える恒例のイベントです。ヤムヒル・カウンティに住む油絵や水彩画、陶芸、版画、彫刻、ジュエリー作家などのアーティストのスタジオを訪れて、作品を見たり、作家と直接話をしたり質問したりすることのできるイベントです。作品を購入することもできます。今年は34名のアーティストが参加していました。私も週末を利用し、8つのスタジオを訪れました。私のお気に入り、ウィラメットバレーに広がる Vineyard (ブドウ園) を描いた絵画です。去年と同様に今年も、Vineyard が描かれた絵のポストカードを購入し、部屋に飾りました。



SJSでは、このイベントが開催されている週に、それらのスタジオを見学する校外学習があり、今年は、小学生、中学生、高校生に分けて計3日間行われました。私も高校生の校外学習に引率として行ってきました。アミティー市にある、水彩画と油絵制作を行うトーニさんとブロンズ像鑄造を行うスティーブさんご夫婦のスタジオを訪れました。生徒たちは、スティーブさんからブロンズ像の制作過程の説明を聞いた後、たくさんの質問をしていました。その後、粘土で作品作りを体験させてもらい、思い思いに作品を仕上げていました。



スティーブさんからお話を伺う



粘土で作品作り